

乙川小学校 校長だより

～思いやり つながり 感性の 輪を広げよう～

おもいやい
なかい
つか
かせいの
かわ
をひろげよう

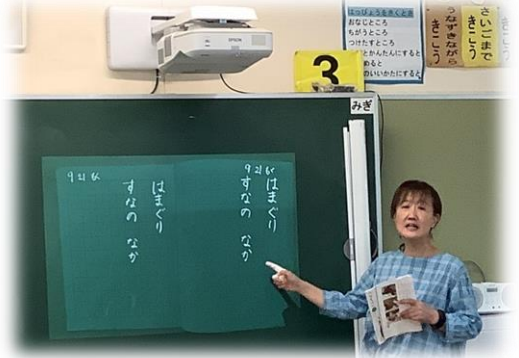
令和 5年 9月 29日
半田市立 乙川小学校
発行責任者 木下稔章

〈上の写真は「半田ハッピーウィーク」の取組で公開日に2年生が行った「親子ふれあい体育」〉

2学期の学習がスタートしました。

今年度本校では、学習環境を整えて子どもたちの基本的な学習習慣を確立することや、ICT機器を活用して分かりやすく示したり、子どもたちが自ら進んで学習する習慣を確立したりすることを意識して指導を行っています。

ICT機器を活用した指導の一つに、「視覚支援」があります。これは、話を聞くだけでなく、目で見て理解できるようにサポートする指導方法です。例えば、ノート指導をする際に、児童が確認しやすくするために、実際のノートをプロジェクターで黒板に映して、児童のノートと全く同じになるように板書する配慮があります。



その他にも、教室前の黒板周りは、掲示物などを極力減らすことで、視覚刺激(=気が散ってしまうこと)を防ぎ、授業に集中できるようにする配慮なども、学校全体で共通して行っています。

チャイムとともに授業を開始することや、授業中に机の上を整理して学習することなど、当たり前だと感じるけれど、なかなか徹底できていないことも、一人一人が当たり前ができるように声かけを継続して行っています。

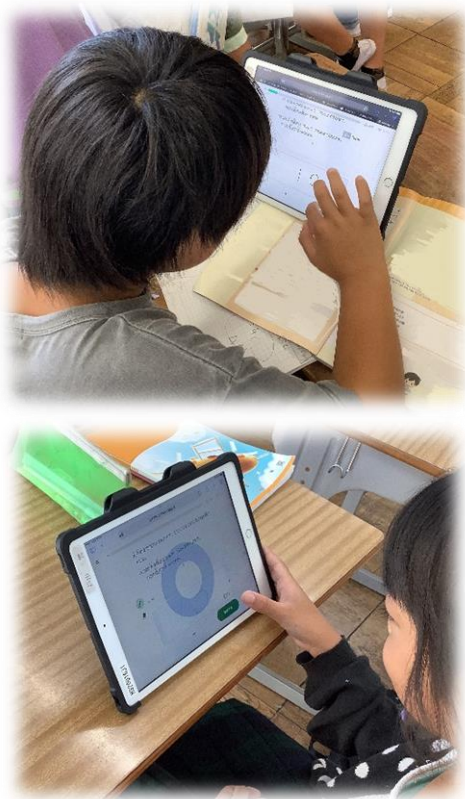
授業では、学習ルールとマナーを守りながら、児童が学びやすく集中できる環境づくりを意識しています。その中で子どもたちは、時には自分自身で考え、時にはグループで意見交換を行いながら学んでいきます。子どもたちが自分で考えたり、お互いに教え合ったりすることが自然にできるように、今後も取組を継続していきたいと思います。



「Qubena(キュビナ)」の活用

1学期にもお知らせした、デジタル教材「Qubena(キュビナ)」を使った学習を4年生から6年生までの学年で進めています。この教材は、AI が搭載されており、児童一人一人の間違いに対して、前の学年の関連した問題など、最適な学習補充をしてくれる機能があります。

子どもたちは、自分で学習を進めていき、それぞれに最適な補充問題を定期的に行うことによって、苦手な問題を克服できるようになっています。現在は、算数科を中心として行っており、授業内での活用が始まったところです。今後は、4年生から6年生の各学年で授業中に計画的に活用できるようにしていき、児童が自ら進んで学ぼうとする態度を養うサポートにしていければと考えています。



「半田ハッピーウィーク」の取組



ふくし共育「しあわせ」ってなあに？



道徳「生きよう 自分らしく！」

半田市では本年度から「幸せになるための教育」を進めています。その中で、10月の最初の週を「半田ハッピーウィーク」と名付け、「私の幸せって、何？ みんなの幸せって、何？ どうしたら幸せになる？」などについて考える取組を行います。本校では、9月29日の学校公開日の授業で、「幸せ」について考えたり、「幸せ」をテーマにした授業を各学年、各担任が考えて行ったりしました。

「幸せ」の考え方には一人一人価値観が異なり、それを実現するための取組も人それぞれではないかと思えます。この「半田ハッピーウィーク」の取組の意義は、教員も含めて、子どもたちがいろいろと「幸せ」について考えてみることで、そして、自分にできることを何でもいいから実践してみることだと考えます。教員や児童が、いろいろと考えて楽しみながら取り組んだ姿を知っていただくと幸いです。